

滋賀県立農業大学校シラバス 001

講座名	法律（農業と法律）	担当	大学教員	実務経験	有	無
科目の種別	教養	共通	専攻	対象学生	1年	2年 就農
学期	前期	後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）		
授業形態（○記入）	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

農業経営を行う上で必要な法律の基礎的知識を習得する。

1. 法律のしくみ
2. 憲法と裁判（訴訟法、裁判員制度）
3. 民法の基礎（契約法と物権法）
4. 農業関連法（農地法、食糧法等）

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	法とは何か、法の解釈、法の基本概念についてなど
第2回（4時間）	憲法とは何か、人権保障と統治機構、裁判制度など
第3回（4時間）	私法上の権利・義務、契約の基本原則、所有権と占有権など
第4回（4時間）	農業基本法、食料・農業・農村基本法など

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

毎回、自作資料（講義レジュメ）を配付する。

到達目標

- 法の基本概念、裁判の仕組みについて基礎的な知識が身についている。
- 売買契約や土地の利用等に関して、民法の基礎知識が理解できている。
- 農業関連の重要な法律について、基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト
- 出欠状況
- 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

002

講座名	経済（農業と経済）	担当	博士課程	実務経験	有	無
-----	-----------	----	------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16 時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農業経営の環境である食料生産・流通・食生活の現状と、基本的な価格形成の仕組みから、農業の現代的課題に関する基礎的な知識を解説する。

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	現代日本の食生活
第２回（４時間）	飲食費のフロー
第３回（４時間）	規模の経済
第４回（４時間）	国内農業の現状と課題
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○農業がわかると、社会のしくみが見えてくる○フードシステム入門－基礎からの食料経済学－○ほか、各種統計資料など	

到達目標
○現代日本の食生活における中食・外食の割合の大きさを把握し、食品製造業・食品流通業で機能している規模の経済の論理とのつながりを理解する。
○農産物の価格形成に卸売市場価格が果たす役割を理解する。
○以上の観点から、国内農業の現代的課題について把握する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

003

講座名	英語	担当	元高等学校教員	実務経験	☒ 有	無
科目の種別	☒ 教養	共通	専攻	対象学生	☒ 1年	2年 就農
学期	前期	☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）		
授業形態（○記入）	☒ 講義	☒ 演習	実験	実習	見学	実技

科目内容（教育研修計画より転記も可）

実用的な英会話により、国際的なコミュニケーション能力を習得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	実用的な英会話
第2回（4時間）	実用的な英会話
第3回（4時間）	実用的な英会話
第4回（4時間）	実用的な英会話

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自主制作プリント

到達目標

実用的な英会話により、国際的なコミュニケーション能力を習得する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度 ○スキルテスト

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

004

講座名	体育	担当	元高等学校教員	実務経験	☒ 有	☐ 無
科目の種別	☒ 教養	☐ 共通	☐ 専攻	対象学生	☒ 1年	☐ 2年 就農
学期	☒ 前期	☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）		
授業形態（○記入）	講義	演習	実験	実習	見学	☒ 実技

科目内容（教育研修計画より転記も可）

スポーツを通じて基礎体力の維持向上と集団でのコミュニケーション能力を習得する。また、生涯健康で暮らせる心身を維持する能力を養成する

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	野球、バスケットボール、バレーボールなどについて
第2回（4時間）	野球、バスケットボール、バレーボールなどについて
第3回（4時間）	野球、バスケットボール、バレーボールなどについて
第4回（4時間）	野球、バスケットボール、バレーボールなどについて
第5回（4時間）	体ほぐし運動・ダンス等
第6回（4時間）	体ほぐし運動・ダンス等
第7回（4時間）	体ほぐし運動・ダンス等
第8回（4時間）	体ほぐし運動・ダンス等

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自主制作プリント

到達目標

運動を通して体力の向上を図るとともに、仲間と運動することにより他人との協力や友達を思いやる姿勢を養う。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 出欠状況 ○ 授業態度 ○ 技術上達度
○ グループ行動状況

評価基準

- ・本講座は演習科目であることから、評価は上記評価で重視する内容を考慮して総合的に評価する。
- ・100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。
- ・なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。

滋賀県立農業大学校シラバス

005

講座名	倫理 I	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1 年 2 年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	1 6 時間（1 単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

人間としての生き方や社会との関わり、集団の中での個人の役割、社会常識、礼儀作法、話し方などについて学習する。

授業内容（4 時間を 1 回分とした内容）

第 1 回（4 時間）	年金制度学習とグループ討議により自己表現を行う、他人の個性を見出す。社会人としての基本的マナー
第 2 回（4 時間）	先輩農業者から学ぶ集団の中での協調性、リーダーシップ 社会人としての基本的マナー
第 3 回（4 時間）	世界農業遺産「琵琶湖システム」敬語の使い方、礼儀作法
第 4 回（4 時間）	人権学習（自分の長所探し）、日本農業新聞を読み取る

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 自作資料（社会人としてのマナー）
- 仕事応援ブック（滋賀県商工労働観光部）

到達目標

- 自分の個性を表現できる。他人の個性を見出し、受容できる。
- グループワークを通じて、協調性やリーダーシップを養成する。
- 社会人として必要な敬語や礼儀作法を修得する。
- 差別の実態を知り、人権の大切さを学ぶ。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト
- 出欠状況
- 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100 点法により、50 点以上を合格とし、50 点未満を不合格とする。なお、成績評価 50 点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が 50 点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則 1 回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

006

講座名	倫理Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-----	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

学生が関心を持ったり、見聞きしたりしている時事的な話題などを取り上げ、人間としての生き方や社会との関わり、幅広いものの見方や考え方を学ぶ。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	社会人としての心構え（マナーとルール）
第2回（4時間）	人権感覚について
第3回（4時間）	コミュニケーションについて （分かりやすい文章の書き方など）
第4回（4時間）	社会とのつながりについて（平和祈念館）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- ・社会人としての心構え、敬語の使い方についての作成資料
- ・文章の書き方の基本と手紙の書き方についての作成資料

到達目標

社会人として、仕事を行っていく上で、基本となる心構えやマナー、感覚を身につける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト
- 出欠状況
- 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 007

講座名	情報処理 I	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	--------	----	---------	------	--

科目の種別	☒ 教養 ☐ 共通 ☐ 専攻	対象学生	☒ 1 年 ☐ 2 年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1 単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験 ☐ 実習 ☐ 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
1. 情報処理の基礎 2. ZOOMの活用について 3. ワード・表計算ソフトの利用 4. 表・グラフによる数値の把握 5. WEBの利用による情報収集力の習得

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	Z O O M の 活 用
第２回（４時間）	ワードおよびエクセルの活用
第３回（４時間）	プレゼンテーションソフトの活用
第４回（４時間）	ルーラル電子図書館の活用とインターネットによる情報収集
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
500円でわかるワード（Gakken）、500円でわかるエクセル（Gakken）、自作プリント（電子図書活用方法）、ZOOM使用マニュアル	

到達目標
☐ ZOOMの操作方法について正しく理解できる。 ☐ ワードの基本的な操作方法を習得し、課題に沿った文書が作成できる。 ☐ エクセルの基本的な操作方法を習得し、課題にあった表・グラフが作成できる。 ☐ パワーポイントの基本的な作成および操作方法を習得し、スライドが作成できる。 ☐ 電子図書館等を活用し、必要な情報を収集できる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 出欠状況 ☐ 授業態度 ☐ 提出物の有無と内容

評価基準
本講座は、演習を主とする科目であることから、評価は提出物、レポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 008

講座名	農業基礎（生物・農業）	担当	県農業技術職員 元高校教員	実務経験	有	無
-----	-------------	----	------------------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
生物学の基礎知識の習得を図るとともに、生物学の基礎知識が農業技術に生かされていることを理解する。 ・農学の基礎知識の習得 ・生物学の基礎知識の習得・GAPの基礎知識の習得

授業内容（2時間を1回分とした内容）	
第1回（2時間）	植物の構造と働き（葉と光合成の働き）
第2回（2時間）	生物の特徴
第3回（2時間）	生物の特徴
第4回（2時間）	植物のしくみと農業技術
第1回（2時間）	滋賀県農業の特徴、農業の基本用語の習得
第2回（2時間）	農薬の取扱い方、肥料の分類等、農薬と肥料、栽植密度の計算方法
第3回（2時間）	GAPの基礎知識
第4回（2時間）	植物の性質、光合成等の基本生理
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
自主教材（高校「生物」教科書からの出展等）しがの農林水産業	

到達目標
光合成の働きは農業への利用など生物学の基礎知識が農業の技術と密接に関連していることや、普段の何気なくやっている農作業が生物学の知識を応用していることについて理解する。農業大学校で学習する上で、専攻に関わらず必要となる基礎知識の習得。 また、近年重要視されているGAPの基礎知識の習得。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 009

講座名	学習方法論Ⅰ (国語 計算)	担当	県農業技術職員 元高校教員	実務経験	有 ☐ 無 ☒
-----	-------------------	----	------------------	------	--

科目の種別	☒ 教養 ☐ 共通 ☐ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☐ 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)
授業形態(○記入)	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験 ☐ 実習 ☐ 見学		

科目内容(教育研修計画より転記も可)
論文等の作成に必要な文章作成・文章表現能力の習得 実習や農業経営の実践に必要な計算能力の習得

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(2時間)	目的に応じた文章表現や文章スタイルの使い分け
第2回(2時間)	計算の基礎
第3回(2時間)	論文の書き方
第4回(2時間)	計算の基礎
第5回(2時間)	小論文作成
第6回(2時間)	計算の応用
第7回(2時間)	小論文作成
第8回(2時間)	計算の応用
使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入	
○自作資料 ○過年度学生が作成したレポート等	

到達目標
☐ 目的に応じて、文体や文章スタイルの使い分けができる。 ☐ 産地見学などのレポートが的確に書ける。 ☐ プロジェクト学習や卒業論文に必要な論文調の文章が書ける。 ☐ 自己の経験や意見などを作文で的確に表現できる。 ☐ 実習や農業経営の実践に必要な計算ができる

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況 ☐ 提出物の有無と内容 ☐ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 010

講座名	学習方法論Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	--------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☐ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
プロジェクト学習に必要な発想力・企画力、プロジェクト学習をまとめる方法論、問題解決の方法論

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	プロジェクト学習の計画の作成について
第２回（４時間）	体験学習の報告書の作成方法について
第３回（４時間）	プロジェクト学習の報告書の作成方法について
第４回（４時間）	卒論の執筆方法について
第５回（４時間）	
第６回（４時間）	
第７回（４時間）	
第８回（４時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
自作資料（プロジェクト学習の意義について、論文で使う用語や書き方について、P Cでの文書作成方法についてなどをまとめた資料）

到達目標
プロジェクト学習で、仮説を立てて実証する能力を習得する。 プロジェクト学習で得られた結果と予想した結果を比較し、論理的に考察する能力を習得する。結果と考察を卒業論文として取りまとめる能力を身につける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、卒業に必須の計画書、報告書等の文書作成を指導するものであることから、提出締切り日時を守れているか、文書の内容、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 011

講座名	地理（滋賀の地理と文化）	担当	大学教員	実務経験	有	無
-----	--------------	----	------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学 実技		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 滋賀県の地理・歴史 2. 滋賀県の風土・文化

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（2時間）	1：オリエンテーション 2：滋賀県の風土
（2時間）	3：琵琶湖と世界の湖
第2回（2時間）	4：滋賀県の人口 5：モノづくりの歴史的背景
（2時間）	6：湖魚のフードシステム
第3回（2時間）	7：滋賀県の道と交通 8：滋賀県の観光
（2時間）	9：地域文化を見せる（高島市針江のエコツアー）
第4回（2時間）	10：「平成の大合併」と滋賀県 11：滋賀県の地名
（2時間）	12：近畿地方における滋賀県

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

特定の教科書は使用しない。毎回、講義のハンドアウト（PowerPointのスライド）と参考資料を配布する。

到達目標

滋賀県の地理（風土、琵琶湖、人口、歴史的背景、各種産業、都市、生活・文化）について学び、卒業後・就農後も使える幅広い知識を身につける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。